

## 「八戸藩勤功帳」の活用法

小池 祐賀子

(八戸市立図書館歴史資料グループ  
主事兼学芸員)

「自分のご先祖について調べたい」—このように考えたことのある方は、少なくないであろう。または、江戸時代の古文書に出てきた「この人物はどういう人か」と

興味を抱く人もいるだろう。

その場合の調べ方として、自身の戸籍を遡ったり、菩提寺の墓石を見たりする方法がある。もしくは、地元の博物館や図書館、文書館が所蔵する分限帳や系譜、郷土資料を活用する等、様々なアプローチが考えられる。では、八戸藩士について調べたい場合、どのような資料を見ると良いだろうか。

そんな時に役立つの

が、八戸市立図書館所蔵の「勤功帳」(きんこうちよう)である。当館では八戸藩主南部家の資料を数多く所蔵しており、代表的なものとして藩の公的記録の「八戸藩日記」(目付所・勘定所・用人所・江戸用人所日記の総称)がある。「勤功帳」もこの南部家の資料群に含まれる。

「勤功帳」は、藩士一人ひとりの役職や勤務功績等が記された職務経歴書のような資料で、初代南部直房(なおふさ)から9代信順(のぶゆき)まで藩主ごとに作成された。当館には、江戸時代

に編纂された原本と、近代以降に再編・清書された写本の2種類が現存する。

いつ頃から編纂されはじめたのかは定かではないが、5代信興(のぶおき)の治世の1748(延享5・寛延元)年6月12日条の目付所日記に「一、御日記改、中里八郎右エ門、勤功帳・勤仕帳改、浅香権右エ門、分限帳・格帳改、山崎甚五兵衛、右之通当月より相究相勤候由御目付申出ル」と書かれていることから、「勤功帳・勤仕帳改」という役職が配置されていたと分かる。また、「当月御用」として、目付役の中から月ごとに担当が選ばれる月番制であった。

内容は、目付所日記から藩士の記述を抜き出してまとめられているため、江戸勤番中の出来事は書かれていない。いろは順に記されているので、調べたい藩士の項目を見たいと、何年に何の役職に就いた等が分かる。

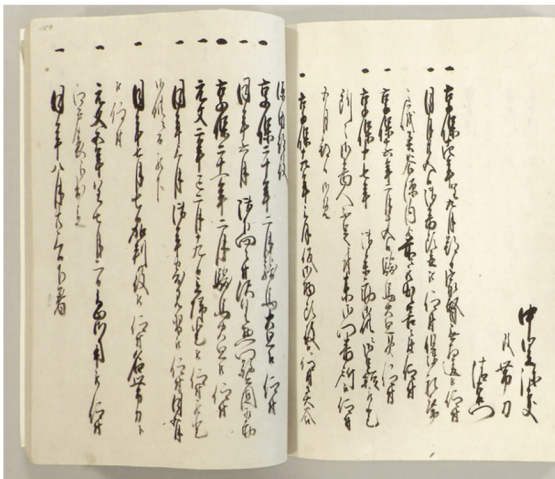
例えば、3代通信(みちのぶ)の治世の「成田甚兵衛」は、1702(元禄15)年に「御用之間御物書」を務め、翌々年には全く別の「春火廻」を仰せ付けられている。あるいは「茄川(奈須川)

五右衛門」は、馬政を担当する馬役を代々務めた。藩の組織は、現在の人事異動に似通うところがあるのかもしれないと思うと興味深い。

「勤功帳」は、藩内の動きを知る手助けにもなる。1741(寛保元)年5月12日〜13日の正見院(4代広信(ひろのぶ))の法事の際に「法事奉行」の者もいれば、「掃除奉行」や「御門警固」を務める者もいる。藩内の出来事に藩士がどのような役職で配置されたのかを読み取ることができ

る。前述のように、目付所日記からの抜き書きのため、前後関係が分かりにくい部分は他資料との照合が必要だが、八戸藩を調べる基礎的資料としても十分に活用できる。

「勤功帳」はくずし字で書かれ、活用しにくかったが、当館では、初代〜4代の時代を収録した『八戸藩勤功帳 第1巻』を刊行した。現代の文字におこし、巻末に五〇音順の藩士名索引を付けたことで調べやすくなっている。このような翻刻本を活用することで、自分のルーツ、あるいは八戸藩について調べる一助となるであろう。



4代広信の治世の八戸藩勤功帳。  
右は原本、左は清書本=筆者撮影・八戸市立図書館所蔵